

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)		家電量販店（店員）	販売量の動き	・2～3か月は数字が良くなかった。5月に入り冷蔵庫、エアコンディショナーが好調であるが、OA商品、特にパソコンの販売額が伸び全体を押し上げている状況である。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・前年比の販売量はここ数か月に比べ、増えている。数か月前は日本の製造業に対する不安の声も多かったが、最近はそのような声も減った。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は、町道・県道が渋滞していたが、過去の数字と比較すると来客数は減少していた。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・連休に向けての各地催しが多くなり、客の外出の頻度も増え売上につながっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・天候にも恵まれ高温な日が多いため、初夏物が例年に比べ早く売れているが、単価は低い。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・外的要因として、大河ドラマ放送、クルーズ船来港により国内外の観光客の来店が増加した。またゴールデンウィークの子供キャラクター催事、例年好評の大型物産催事、10回無金利・ポイントクレジット催事を開催し、その結果、地元客が親子孫3代で来店し、子供の元気な声で店内が大いににぎわった。子供キャラクター催事会場への入場制限により長蛇の列ができた。店内の喫茶店、大食堂への波及効果も大きかった。紳士衣料雑貨・リビング用品の購入単価・売上伸長率も上向いている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・生鮮部門では、鮮魚、精肉の販売量が伸び、売上が若干回復している。乾物、缶詰類では小麦等穀類が若干値上げをしており、販売量が減少しているが、利益は出ているので、状況は良くなっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・今月は国際会議や明治維新150年記念式典が当市で開催されたため、国内外から多数の人が訪れ、売上の増加に結び付いた。
		高級レストラン（経営者）	販売量の動き	・中国、香港、台湾の訪日外国人によって、売上を支えている状況である。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数も徐々にではあるが増えており、予約状況も悪くない。
		観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・地域内に倒産した旅館があり、その予約客が他の旅館に流れているようだ。今後もこのような現象があるかもしれない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・大型連休中は催物が多く、観光客でにぎわい、街中に活気があった。後半の平日は人出も少なく夜の繁華街は閑散としているが、週末には活気が戻っている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売の繁忙期は過ぎたが、販売量の好調を維持している。
		ゴルフ場（従業員）	お客様の様子	・以前に比べると来場者数、来場者の飲食の回数が増加した。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・平成30年4月の介護報酬改定によって報酬額が増加し、大手介護事業者の決算も増益傾向である。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・観光施設の管理運営について、国内外からの観光客が微増傾向である。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・消費税の引上げ前の動きが徐々に出ており、戸建て注文の契約棟数も若干増加している。
		商店街（代表者）	単価の動き	・景気は全体的に上向き傾向があるが、一方で商店街では閉店する商店が増え、良い面と悪い面の差が出ている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・小売業の店は、相変わらず売上の伸び率が良くない状態で営業している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・店じまい等の売出しで、単価を安くすると客は購入するが、イベント以外は買い控えをしている。必要な物があっても、単価等で商品を選んでいる。厳しい状況を反映している。

商店街（代表者）	お客様の様子	・野菜・魚等一部の値上がりりが落ち着いた。来客数には変わりがないが、3～5月は出費が増える時期で、客の購買力が見受けられない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの商店街の来店客数は年々減少しており、増加する状況はない。
一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・3か月前は寒さにより野菜の収穫が少なく、全国的に野菜の値段が高騰したが、最近ではかなり安くなってきた。例年ゴールデンウィーク前後では、野菜、果物の値段が高くなるが、今年は普通の相場になり、5月の営業は厳しい状態であった。
一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・本当に売れていない。最近多くの消費者が土曜日、日曜日にスーパーマーケット等で食材を購入するため、特に月曜日が売れなくなっている。週のうち、売れるのは金曜日だが、それでも余り売れていないので、厳しい状態である。
一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・当店は地震後の改修工事に取り掛かるが、それにより店舗が見えづらくなるため、客の入りが悪くなり売上が落ちることが心配される。
百貨店（店舗事業計画部）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは遠方からの来店客も多く、引き続き好調な訪日外国人消費にも下支えされ、売上は堅調に推移している。
百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・高額品の動きが好調であることと、訪日外国人の効果が続いている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・買物パターンに変化が見られず、セールスに連動した動きが顕著である。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・消費者の価格選別志向が根強い中で、競合店の新規オープンが重なり来客数が減少している。客単価や購入点数で前年比を若干超えているが、引き続き厳しい状況が続いている。
スーパー（統括者）	お客様の様子	・少しずつ景気が回復しているように感じていたが、客の購買意欲が出る前に一部商品の実質値上げがあり、客の行動が値下げ商品に敏感に反応する状態である。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは大幅に客数が減少した。前年の売上を確保できず、月始めより厳しい状況となった。客の買物動向としては、必要な商品のみを購入している。例年とは違い厳しい状況である。
コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・3月下旬から4月にかけては天候が良く、今后来店客数が伸びると期待していたが、4月下旬から5月にかけて天候がはっきりしなかったことで来店客数が伸びず、売上が安定しなかった。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・相変わらず客の出足が悪い。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・景気の良しあしの判断が難しい状況である。身の周りの景気も良いのか悪いのか分からない感じである。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・5月前半は季節感のある色物等が動き始めていたが、後半は動きが止まり、早くも売出し待ちの状況である。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・季節商材が早めに動いている。薄型テレビは、単価は下がっているものの、前年を超えて推移している。白物家電の伸び悩みが目立つ。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新年度になって新車販売台数が低調である。来店客数も少なく苦戦しており、新型車が出ていないことが影響している。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・都市部のキャンペーンは順調だが、今月は大きな催事がなく、店舗では来客数が少なく、売上も良くない。
その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・常連客の来店が減少しているものの、新規の客が若干増加している。売上の前年と変わらない状況であるが、客の内訳が変わっている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は、やや値上げ傾向である。5月初旬の連休は、観光で当地を訪問する方も多く、燃料油の販売も好調であった。下旬にかけて、小売価格がやや値上げの傾向となり、全体的には前年並みの状況である。
ドラッグストア（部長）	販売量の動き	・店舗間の競争がより厳しくなっている。

その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・映画業界とファッション物販の不振は続いているものの、エステやカルチャー系を中心としたサービス業種が好調に推移しており、全体の売上としては前年を上回るようになってきた。ただし景気が上向きと判断するほどのインパクトはなく、全体の景気動向としてはもう少し様子を見たい。ここ1年の前年対比の売上はプラスマイナス2%を行ったり来たりしている。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・来場者数、売上共にこの数が月大きな変化はない。
高級レストラン（支配人）	単価の動き	・注文が高い価格のコース料理がよく出ている。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク中の披露宴・宴会の予約受注が前年より落ちている。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・客数は相変わらず好調に増加しており、6月からメニュー値上げを行う。
旅行代理店（企画）	販売量の動き	・変化が余り見られない。
タクシー運転手	来客数の動き	・訪日外国人の影響で当市は順調に売上が伸びている。
タクシー運転手	お客様の様子	・連休中のタクシー業は、昼が利用が少なく、夜は変わらない状態が続いている。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・年度初め、ゴールデンウィークを過ぎて社会全体の動きが鈍くなっている。
美容室（経営者）	販売量の動き	・少しずつ景気は回復しているように感じていたが、数字的には変化がないのが現状である。何か新しい対策をしてほしい。
美容室（店長）	来客数の動き	・例年ならば5月の連休は結婚式参列者の向け付けやセットの販売があるが、今年はなかった。来客数も変わらなかった。
設計事務所（代表）	来客数の動き	・来客数が若干減っている。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅販売のマンション戸建ての分譲は、来場者数は横ばい、契約件数も横ばいで景気は余り良くない。
商店街（代表者）	単価の動き	・客単価が前年から15%低下し、低単価の商品しか売れない。郊外大型店での催事の影響がある。
一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・飲食店向けの販売量が大幅に落ちている。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中の人通りも少なく、来客数は減少し、外交販売も会社の長期休暇で注文が減少している。そのため、売上は、前年に比べやや減少した。
百貨店（総務担当）	販売量の動き	・来店客数は前年を超過しているものの、近隣競合施設の改装や新規店舗の出店などで購入客数の減少が続いている。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・婦人衣料の厳しさは前月から続いている。4月の動きは少し良くなっていたが、5月に入り動きが非常に悪くなった。気温が上昇してきたのでカットソー等の動きは良いが、かなり単価が下がっている。高額品については好調だが、今までの勢いがなくなっている。ただ、訪日外国人の購入は好調である。5月は非常に厳しい状況である。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・前年に比べると、客の商品に対する関心が薄い。震災後の需要も少なくなり、同時に買換え済みの客が多い。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・来店客数も減少だが、それ以上に売上の減少が大きい。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来店客数が前年比の94%で推移し、売上も横ばいで前年比の94%で推移している。青果の相場が前年比の86%であったことや、魚離れの影響でかなり厳しい状況である。
スーパー（店長）	来客数の動き	・今月に入り売上低迷が続いており、特に生鮮食品の落ち込みが大きい。野菜類では、前年は相場安で売上が厳しかったが、今月は更に厳しい状況である。客単価は辛うじて前年を維持しているが、客数は減少している。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・寒暖差が激しいため、全般的に売場展開が夏型・春型とはっきりせず、売れる物が売場がない場合がある。

	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・天候に低温日があり、販売量、売上に影響している。前年の秋から売上の前年比マイナスが続いており、景気は良くない。
	衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・単品購入が多く、来店客数に変化はないが販売数量が減少している。
	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・他の商業施設の競合関係において、訪日外国人の来店数の減少や庁舎移転の影響が徐々に出ており、来客数の減少につながっている。
	家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・この時期は端境期で客足が鈍り、今年は前年割れを起こしている。競合店も同じ状況である。
	都市型ホテル（副支配人）	お客様の様子	・日曜日、月曜日における訪日外国人の宿泊が少しずつ減少している。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・韓国旅行は回復の兆しが見えてきたが、東南アジア旅行が鈍化している。国内も大阪のレジャー施設方面は堅調な動きであるが、東京方面は低調なままで推移している。ますますインターネット販売へ流れる傾向が強い。
	通信会社（業務担当）	単価の動き	・一層の価格の下落に備えて、全くの別事業での収益を模索している同業者が増えてきた。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・2月後半は卒業式等で状況は良かったが、今はイベントがないため、悪くなっている。
	設計事務所（所長）	単価の動き	・生活必需品の実質の値段が上がっているが、収入は増加しない。
	× 商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後は来客数が減少した。売出し商品を出したが、その商品のみが売れ、まとめ買いがない。
	× 百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・テナント別売上は、3か月前は前年並みであったのに対し、今月の見通しは全てのテナントで前年実績を下回っている。化粧品のリニューアルを行い、化粧品だけは前年比を上回っているが、全店の来店客数は3か月前より悪くなっている。特に衣料品全般は全店で悪く、売上の減少に拍車をかけている。ゴールデンウィークも数字が伸びなかった。
	× 高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・売上は、1～3月はほどほどであったが、4～5月の状況は今までになくかなり悪い状態である。
企業 動向 関連  (九州)		-	-
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・家具の小売は需要期を終えたが、少子化による絶対数の減少から毎年マイナス基調となっている。特別注文家具については、訪日外国人の増加及び東京オリンピックの影響によるホテルの建設ラッシュにより伸び続けている。小売は5～8%の減少、特別注文家具は2けたの伸びが続いている。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・機械設備製作部門、金属加工部門共に順調に推移している。以前は海外向けが多かったが、現在は国内向けも増えており、景気は両部門とも良好である。
	電気機械器具製造業（取締役）	受注価格や販売価格の動き	・受注状況は一部業務を除いて引き続き好調である。
	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	受注量や販売量の動き	・客が増産しており、価格も高値を推移している。ただし、一部中国向け商品の輸出規制により売却価格が低下し、仕入価格の方が上回る現象が起きている。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・海外向け日本製の健康食品受注が引き続き好調である。受注から納品まで通常3か月程度のところ、生産が追い付かず、6か月待ちの状況である。それでも受注が続いており、メイドインジャパンのブランド力の強さを改めて認識した。化粧品も同様に大手化粧品メーカーからの生産依頼も増加しており、当面は好景気が続く。
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・貨物の保管量が増えており、倉庫内は満床状態である。食品関係は引き続き好調なもの、衣料品関係は苦戦している。
	金融業（営業）	取引先の様子	・半導体関連の製造業を始め、以前から大きな需要があるが、一部で受注増加に対応するための設備投資がみられるようになった。また、人手不足解消のため、地方でも外国人の採用が目立つようになった。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・5月は、良い天候により、サービス業、小売業共に客足が増え売上が伸びているため、全体的には景気は良くなっている。
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・低価格酒を購入していた客が高価格酒を購入する傾向がある。

	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注が増加しており、企業の投資意欲が上向いている。	
	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月は売上が伸びる時期であるが、今年も売上が順調に上がっている。特に居酒屋向けは注文が多い。ただし、スーパーマーケットは売上に陰りがあり、3～4月のような動きではない。加工メーカー向けの生産量は多く、前年並みの出荷であるが、生産量が多い分在庫も多くなっている。調整も多く、工場は大変な忙しさである。残業等で対応していたが、働き方改革で対応に苦慮している。	
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・繁忙期が終わり、比較的落ち着いている。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間内に陶器市が開催されているが、前年と比較すると人出が多く、売上也伸びている。受注関係も前年に比べ順調である。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度の動きが少し懸念されるが、従来の動きは出てくると思われる。しばらく様子を見る状態である。	
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量に関しては、ほぼ変わっていない。人手不足により、受注量に制限があり、これ以上はゆとりがない状態である。	
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の発注予定は公表されているが、発注に至っていない。民間工事があるので仕事はあるが、早期の工事受注を期待したい。	
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・時期的に飲料水の荷動きが活発になるため倉庫は埋まってくるが、他の貨物は荷動きが悪く低迷している。ただし、木材等は住宅のリフォーム等の活況もあり増加傾向にある。食品は値上げもあり全体的に低迷している。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・マンション販売は供給過剰気味で販売に陰りが出てきている。一方、百貨店の売上は持ち直してきており、コンビニエンスストアの売上也増加傾向にある。また、自動車販売がこのところ回復している。	
	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・当地の動きは鈍いものの、首都圏からの広告出稿は少しずつ良くなっている。	
	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・余り好調な状況ではない。	
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・比較的好景気になっている。当社では設備投資があり、周年行事や慰安旅行の復活、本社移転など前向きな話が多い。期末ボーナスを支給した会社もある。	
	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・客は毎年決算前に多くの在庫を保管しないため、受注からの指示がない。景気が良い時は在庫を気にせず生産するため、今年は良くない。	
	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・例年第1四半期の売上量は少ないが、特に今年は少ない。数か月前の受注量減少の影響を受けており、例年回復する受注も回復の兆しが見えない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4～5月において主要取引先の装置生産台数の下方修正に伴い受注が低調。現在の計画では7月以降持ち直す計画である。	
	×	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・九州産の青果市況は、特にピーマンやトマトなどの野菜類において非常に悪い。今後は果菜類の市況が上がっていく予想も出ている。
	×	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・一部の工場で定期修理があった。
	×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・当県内を中心とした市町村の当初予算では、建設や調査、計画等の業務が前年度より激減しており、極力、関連予算を減らす方向にある。このため、見込みより半額程度の予算の業務であっても、そこから更に約3～4割減の金額で入札に応じる指名業者もあり、委託金額の採算を無視した安売りが発生している。
雇用 関連  (九州)		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・前年度に比べ当地区での新卒求人が増加している。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・発注の経緯が交替案件ではなく、純粋に新規立ち上げや増員等での依頼が多い。直接雇用での切替への依頼なども多く、企業の受入れ態勢も柔軟になっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・売手市場、働き方改革などの影響で企業からの依頼が増えている。

	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・新規企業からの注文が増加している。既存企業からも同様に増加しているが、派遣社員を使用したことのない企業からも問合せがある。また、欠員補充ではなく増員による注文が多くなってきた。
	新聞社 [ 求人広告 ] (担当者)	それ以外	・春の観光シーズンでもあり、引き続き当市内や観光地に外国人観光客の姿が多く、宿泊施設や買物を含め消費につながっている。
	学校 [ 大学 ] (就職支援業務)	求人数の動き	・2019年卒業採用において、企業の採用意欲は高く、内定者獲得への動きが早期化、活発化している。求人票の受理件数は、前年度の同時期と比較し同程度である。企業側の説明によると、事業拡大という説明が若干増えている。
	求人情報誌製作 会社 (編集者)	採用者数の動き	・これまで採用確保が厳しかった企業では、徐々に採用が増えている。
	職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・求人の増加傾向は変わらないが、求職者が35歳未満の若年者を中心に1～2割程度前年度より減少している。45歳以上の中高年層では前年度とほぼ変わらず、55歳以上の高年齢者は、逆に僅かに増加している。企業は基本的に若年者の採用を希望しているが、求職者が減少していることから、両者の意識にズレが生じている。
	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・求人数のみをみると減少しているが、世界遺産の登録勧告もあり、宿泊・飲食サービス関連企業より、観光面での一層の増収が見込まれると期待の声が聞かれている。
	職業安定所 (職業紹介)	求人数の動き	・引き続き求人数の増加がみられ、管内の有効求人倍率も高い水準で推移している。
	-	-	-
x	-	-	-